

柚木の お天白さん

駅北地区の柚木ゆきに天白てんぱく神社しんじやがあります。地元の人は「おてっばくさん」と呼んで、毎年九月にはお祭りをやっています。

天からお米が

昔はどこの家でも、おじいさんやおばあさん、子供も手伝つて家中みんなで農業をやっていました。

ある年、柚木村の初穂田はつほだという田んぼに、とつても大きな米粒が三粒、天から降つてきました。米粒の大きさは、長さ一寸八分とい

いますから今でいう約八センチになります。

村の人たちは



昭和六十二年五月五日号

「不思議なことがあるもんだ」

「きつと、この土地はお米の神様と関係があるに違いない」

と米粒の一つを祭つて、天白神社と名付けた社を建てたそうです。

そして残りの米粒は、米之宮浅間神社と出雲大社に奉納したという事です。

天白池や古井戸も

天白神社は、柚木公会堂の隣にあります。

今はなくなりましたが、昔は境内に天白池という名の大きな池や古井戸もありました。柚木村の人たちは、この井戸をつい最近まで生活用水として利用していたそうです。

今は、天白神社だけが残り、池があつたあたりは家が建ち、道ができてしまっています。

飛行機松

また、昭和七年まで境内には、飛行機松と呼ばれた松の木がありました。

柚木の渡辺一見さんと佐野正三さんは、この松について「飛行機松つていうのは、飛行機のように枝が広がつていて大きな松の木だったんで、そう呼ばれてたんだよ。大人が四人がかりでないと手が回らないほど太い松だったね。なんでも、富士山の三合目から見えたそうだよ」と話してくれました。